

「地下水と物理探査」によせて: 動向と将来

Groundwater and Geophysical survey: overview and future

後藤 忠徳 [1]; 松尾 公一 [2]; 嶋田 純 [3]; 徳永 朋祥 [4]

Tada-nori Goto[1]; Koichi Matsuo[2]; Jun Shimada[3]; Tomochika Tokunaga[4]

[1] JAMSTEC; [2] 日鉄鉱コンサル; [3] 熊本大・院・自然; [4] 東大・新領域・環境システム学

[1] JAMSTEC; [2] NMCC; [3] Grad. Sch. of Sci. & Tech., Kumamoto Univ.; [4] Dept. Environment Systems, Univ. Tokyo

<http://www.jamstec.go.jp/res/ress/tgoto/>

地下水をターゲットとした物理探査は近年盛んに行われているが、探査結果の解釈は研究者・技術者双方にとって悩ましい。その背景として点在する物質データを扱う地下水調査と、広域物理データを扱う物理探査の間の隔たりが挙げられる。地下水の研究者と物理探査の技術者の視点、さらに地質学的眼点などから、地下水の調査・解釈事例の紹介や問題提起を行い、地下水調査の幅広い情報交換を通じて問題の解決や将来像を模索するために、昨年引き続き本セッション「地下水と物理探査」を実施した。

本講演では本セッション「地下水と物理探査」に関連して、近年の地下水調査における物理探査の役割の概観する。例えば、物理探査学会・日本地下水学会・日本応用地質学会における、「地下水と物理探査」関連発表をとりまとめ、その傾向を論じる。また昨年および本年の本セッションの発表内容も踏まえつつ、将来像について議論を行う場としたい。